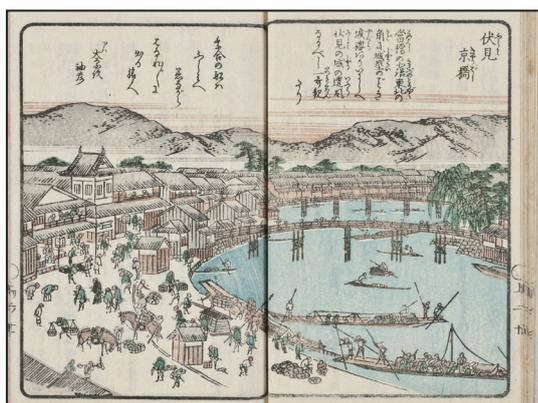




伏見って、実は港町だった!?

「海がないのにどうして?」と不思議に思われるかもしれませんが、実は伏見には国内唯一の内陸河川港「川のみなと」があります。



▲ 伏見・京橋の様子

安土・桃山時代、豊臣秀吉が伏見城築城の際につくった伏見港。当時秀吉は、強大な権力と財力で、伏見を全国の有力大名が集まる天下の一大拠点へと発展させ、大量の物資を運べる水運がそれを支えました。

江戸時代に、京都の中心部と高瀬川運河でつながったことにより、伏見港はさらに発展。参勤交代の大名の宿泊施設（本陣）や幕末の舞台となった「寺田屋」などに代表される船宿も多く置かれるなど、伏見のまちは港町として大いに賑わいました。

その後、明治期の蒸気船の登場などによる発展を経て、昭和初期に鉄道などの陸上交通機関に取って代わられるまで、京都と大阪を結ぶ舟運の要衝として、大きな役割を果たしました。

現在は、酒蔵や四季の豊かな自然の中、宇治川流派に十石舟が行き交う景色が往時の繁栄を偲ばせます。

「みなと」を切り口にしたまちづくりが進行中

伏見港では、令和3年4月の「みなとオアシス」登録を契機に、本市や京都府、地元企業等が参画する「川のみなとオアシス水のまち 京都・伏見」運営・まちづくり協議会を発足。

この協議会が中心となり、伏見港周辺エリアの整備と賑わい創出等に取り組んでいます。

令和4年9月には、まちづくりのビジョンを策定。

水と歴史を活かした「みなと暮らし」を楽しめるまちの実現に向け、取組方針やエリア別のまちづくり、広場等の整備イメージなどをまとめました。



また、賑わいづくりの一環として、毎年秋には、伏見港で水上アクティビティや地元特産品のマルシェなどが楽しめる「ふしみなとフェスタ」を開催しています。



詳細はこちら▲



2月28日に伏見夢百衆（京都市伏見区南浜町）で、伏見界隈で育ち現在も伏見でご活動されている5人の方々にお越しいたき、伏見港のこれまでとこれからについて語り合う座談会を行いました。

伏見港の未来



木村 健一郎
さん

伏見区市政協力委員
連絡協議会
南浜学区会長



増田 徳兵衛
さん

NPO法人
伏見観光協会
理事長



石本 正宣
さん

伏見桃山
がんばる7商店街
会長

地域にとっての「伏見港」

—伏見港の思い出や印象をお聞かせください。

木村 健一郎さん 「伏見港の川向いにある三栖という地域に、80年余り住まわしてもらっているんですけども、まだ三栖閘門が作動していた時代、私が子供の頃は小舟に乗ったり魚を捕ったりしていました。当時は、プールなんてないんでね、子供達にとっては生活の中で川はいわゆる「遊び場」になっていました。東高瀬川、宇治川、濠川（宇治川派流）に囲まれたこの地域は、水辺がとても身近でした。

また、昔は水運の時代で、伏見は「京都の玄関口」でした。大阪から船で運んできた石炭が、伏見港で山積みになっていたことを覚えています。」

増田 徳兵衛さん 「私は伏見区の下鳥羽で育ちましたが、伏見港の地域はより「水」に近いイメージを持っていました。

伏見観光協会では、宇治川派流で十石舟を運航しています。港のことでいうと、平成6年の「伏見港開港400年祭」が思い出深いですね。

酒サミットのようなコンセプトで、海外8カ国の総領事と大使に来ていただき、屋形船を出したり、打ち上げ花火をしました。警備を外務省に頼んだり何かと大変でしたが、その時に伏見の様々な方々と知り合うことができ、ネットワークができました。」



田川 広一
さん

みなとあかり
実行委員会
代表



西垣 久仁彦
さん

(株)アオキカヌー
ワークス
マネージャー

—お酒を作ることと水辺との関係は？

増田さん 「水運との関係でいうと、上方の酒は主に兵庫県の灘から江戸に下りました。伏見の酒はどちらかというと昔は公家との関連もある京都で消費されていたのです。酒づくりには良質で豊富な水が必要ですから、もちろん水との関わりは重要です。伏見はかつて「伏水」とも書かれていたほど質の高い湧き水に恵まれていますから、酒造業が盛んになったのも道理ですね。」

商店街でのまちづくり

—商店街と港との関係は？

石本 正宣さん 「私が子供の頃と違い、濠川（宇治川派流）は十石舟が走り大変きれいになりました。今年3月2日には伏見港公園をメイン会場に酒フェスが行われますが、中書島駅から伏見の商店街までは割と距離があります。

イベントに来られた方をこっこの商店街に引っ張るにはどうしたら良いか、それは各商店街が知恵を絞って考えなければいけません。

清水さんや四条はインバウンドで盛り上がっていますが、伏見はそこまで外国の人は多くないのが現状。今は皆さんSNSなどで色々な情報を仕入れ、隠れた場所でも魅力のある場所は賑わいます。インバウンドの取り込みも、これからの課題のひとつですね。

今後、万博に向けて、宇治、八幡、枚方と繋げて、なんとかもうちょっと盛り上げていかなければと考えています。今は無理かもしれないけど、伏見港に「港の駅」、地元の特産品をいつでも楽しんでもらえるような施設ができて、それが集客につながればいいな、と。」

みなとオアシスの取組

—令和3年、伏見港は「みなとオアシス」として登録されました。その後、「ふしみなーとフェスタ」や、伏見港パートナーによる「伏見みなとあかり」が開催されてきましたが、今後の可能性などどんなことを考えていますか？

田川 広一さん 「伏見は、「お酒のまち」大人

のまちのイメージで、子供が遊ぶところがないのが現状です。日々子供が行けるような場所にしないとイケないと思います。僕らが行う灯りのイベントでは、多くの人を集めることができます。「酒フェス」もそうですが、お酒のイベントでも何千人規模の方が伏見を訪れます。その時にお子さんが滞在できる場所があれば、家族みんなで伏見に来て、商店街にも回っていただくことができます。

京都中心部と伏見の違いってなると、伏見はまだ住むところが沢山ある。だから子供が遊ぶ場所や、子供がずっと行けるようなイベントがあればその近くに住むと思っています。子供が関われるイベントをどんどんやっていくというのではないのでしょうか。

万博に向けて、淀川舟運のことが注目されていますが、沿川の中でも伏見は出遅れている気がします。動力船が上がってこれないので仕方ないところはありますが、ちょっと置いてけぼりになっているような気はしています。行政も我々も一丸となって頑張りたいですね。」

石本さん「商店街でも、宇治川派流の寺田屋浜で万灯流しとしていましたが、川の流れがないので、きれいに流れなくて。灯りだけで流さない万灯って話も出てるんで、また相談させてください。一緒にコラボできたらいいですね。」

田川さん「いや、もうぜひ。僕らが使ってるのは和蠟燭で天然素材なんです。最終的に川に流れても溶けるんで、もし落ちて大丈夫。」



夕方の「みなとあかり」

伏見港の水辺の強み

—— 水上アクティビティをされてる西垣さん、伏見港での取り組みや考えていることなどをお聞かせください。

西垣 久仁彦さん「伏見には母方の実家がありました。子供の頃は御香宮さんや桃山のキャスルランドなどによく遊びに行き、伏見港を訪れる機会はあまりなかったのですが、大人になってからカヤックで宇治から伏見まで川下りをするようになりました。実際下ってみるとすごく良い川で。初心者でも結構安心して下れる川なので、その魅力をもっと広げたいです。

3年ほど前にみなとオアシスの登録をされた際、登録記念イベントで初めて SUP というサー



伏見万灯流し



ふしみなとフェスタ

フボードの大きいものを浮かべてたんですけども、結構楽しい上に、駅から近い伏見の街中でアクティビティ体験ができるっていう特別感がありました。

その次の年からの「ふしみなとフェスタ」というイベントでは、ライフジャケットさえ着ていけば小さいお子さんでも体験できるラフティングというボートを使っています。

年々、実証実験的に色々な試みをしているのですが、田川さんのところと連携して和蠟燭を SUP に付け、お客さんに宇治川の水辺を和蠟燭を灯しながら楽しんでもらったこともあります。それは感動的な光景でした。

また、伏見では伏見区さんを含めた沿川の自治体と連携して E ボートで川下りをするイベントも行っています。川下りをした先でその地域のとっておき体験を楽しんでもらうんですが、和蠟燭の絵付け体験と一緒にやらせてもらったこともあります。こういったことは、地域の観光資源の掘り起こしにもなりますね。正直言うと、以前自社で E ボートの事業をしていた際は、全然集客がなかったんです。川下りだけでは輝かないので、地元や観光系の事業者さん、商店街、行政の皆さんと一緒に組んでやるとそれぞれが相乗効果を生んで少しずつ輝いていくようなイベントができるんじゃないかな。

最終的には、先ほど皆さんのお話に出ていた「港の駅」なんかが賑わいづくりの拠点としてあるとすごくいいなと思います。」

石本さん「商店街としては、個々の商店街の活動だけでなく、地域を面として魅力をアピールしていきたいですね。皆さんがこうして色々なイベントを実施してくれることは大歓迎だし、可能な限り連携していきたい。やっぱり回遊してもらおうことが大事ですね。」

—— 2025 年に大阪万博が控えていますね。

石本さん「枚方や八幡は淀川舟運にかなり気合が入っているように思います。もし伏見に船が来ても、着いた先で何も無いのは残念です。」

木村さん「閘門で降りたら記念館行って終わりでしょ、何かもう一つ目玉があるんじゃないか

と思うんですけども。」

増田さん「SNS で撮って映えるものが欲しいね。新たに何かをつくるのは大きな労力があるので、今あるものの魅力を掘り起こすことも大事です。」

木村さん「そういう意味では、三栖閘門の展望台が復活したらいいですね。」



伏見夢百衆

—— 今日、ありがとうございました。最後にお一人ずつ感想をお願いします。

木村さん「お話に出ていた「港の駅」もそうですが、何か目玉になるものがあたらいいですね。一番手取り早いのは三栖閘門の展望台かと思っています。」

石本さん「なんとかもうちょっと工夫して、大阪から来られた人に恥ずかしくないようにしていきたいですね。」

増田さん「今回は港だけの話に集中していますが、伏見ってナンバーワンがいっぱいあるんです。チンチン電車や伏見城があったり。ピンポイントだと中々難しいから、商店街とか全部巻き込んでもうちょっと広い地域で何かつくっていかねあかん気はしています。」

田川さん「私は唯一伏見が人を増やせる地域だと思っています。もっと人が住みたくなる、何か面白いことやってるな、という地域に今しないと。今がチャンスだと思ってるので、できる限り子供も一緒に楽しめるイベントをどんどんやっていければと思います。」

西垣さん「僕はいつ伏見に来て、川で船やカヤック、ボートに乗れたり、ここに来たら川で何しら遊べるっていう場所にしていきたいなと思っています。」

伏見港周辺エリア 今後の主な整備



伏見港の水辺空間を誰もが楽しめる憩いの空間として、またイベントなどで安心安全に利用できるよう、伏見みなと公園広場や伏見港公園、宇治川派流沿いの整備工事が順次始まっています。

また、宇治川沿いでは、河川空間を活かした地域の賑わい創出を目指し、まちづくり協議会と国土交通省淀川河川事務所連携のもと「伏見地区かわまちづくり」の取組が令和5年8月から始動。「みなとオアシス」と連携した伏見港の一体的なまちづくりが始まっています。現在は2025年の大阪・関西万博に向け、国により船が着岸可能な親水護岸などの整備が進められています。

伏見と大阪が水の路でつながる、舟運の復活に期待が高まります。

伏見港 パートナー 募集中！

伏見港パートナーは、伏見港の賑わいづくりや地域を盛り上げようと自ら行動される方々の連携を図り、活動を後押しする制度です。伏見地域の持続可能な賑わいづくりに取り組んでおられる方々、そうした活動を応援される方々を募集しています。

皆様のお申込みをお待ちしています。

登録無料

伏見観光協会のHPからお申込みいただけます



詳細はこちら▲

伏見港への アクセス



Access Map



■ みなとオアシス代表施設

■ ■ みなとオアシス構成施設

船着場設置予定